

平成26年度淡路広域水道企業団水道事業会計

決算審査意見書

淡路広域水道企業団監査委員

## 目 次

1. 審査の対象	1
2. 審査の期日	1
3. 審査の方法	1
4. 審査の結果	1

### 水道事業会計

1. 業務実績	2
2. 主な建設改良事業	2
3. 予算の執行状況	2～4
4. 経営成績	4～5
5. 財政状態	6～7
6. 経営分析	8
7. むすび	9

### 《凡 例》

本書における数値等の取扱については、以下のとおりである。

- 1 構成比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示した。  
したがって、合計と内訳の比率が一致しない場合がある。また、小計がある場合は、合計、小計割合の順で優先しているので、個々の項目の構成比は、組合せにより異なる場合がある。
- 2 文中に用いるポイントとは、パーセンテージ間又は数値間の差引数値である。
- 3 各表中の表示及び符号の用法は、次のとおりである。

「税」	消費税及び地方消費税
「—」	該当数値がない場合
「0.0」	該当数値はあるが表示単位未満を示す
「△」「－」	負数を示し、増減を示すときは減を示す
「皆増」	全額増の割合を示す
「皆減」	全額減の割合を示す
「廃止」	科目廃止を示す

## 平成26年度淡路広域水道企業団水道事業会計決算審査意見

### 第1 審査の対象

平成26年度淡路広域水道企業団水道事業会計決算

### 第2 審査の期日

平成27年 6月30日

### 第3 審査の方法

審査にあたっては、決算報告書、財務諸表及び附属書類が関係法令に基づいて作成されているか、経営成績・財政状態を適正に表示しているか、更に地方公営企業法第3条の基本原則に基づいた経営がなされているか等に留意して、関係諸帳簿、証拠書類等を照合するとともに、関係職員から説明を聴取した。また、例月出納検査の結果も参考にして審査を実施した。

### 第4 審査の結果

審査に付された決算報告書、財務諸表及び附属書類は、関係法令に基づいて作成され、経営成績・財政状態を適正に表示しており、また企業の経済性及び効率性に留意して運営されているものと認められた。

以下、水道事業会計の経営成績及び財政状態の概要並びに意見は、次のとおりである。

## 水道事業会計

### 1. 業務実績

区 分	平成26年度	平成25年度	対前年度比率	
			増 減	比 率 (%)
給 水 人 口 (人)	141,259	137,475	3,784	102.8
給 水 栓 数 (栓)	64,627	62,112	2,515	104.0
年 間 配 水 量 (m <sup>3</sup> )	18,771,876	18,228,590	543,286	103.0
1 日 平 均 配 水 量 (m <sup>3</sup> )	51,430	49,941	1,489	103.0
1 日 最 大 配 水 量 (m <sup>3</sup> )	58,584	60,376	△ 1,792	97.0
年 間 有 収 水 量 (m <sup>3</sup> )	15,124,458	14,890,455	234,003	101.6
有 収 率 (%)	80.6	81.7	△ 1.10	98.7
職 員 数 (人)	70	71	△ 1	98.6

当年度末における給水人口は14万1,259人、前年度に比較して3,784人、2.8%の増加となっており、給水栓数は6万4,627栓で、前年度より2,515栓、4.0%の増加となっている。

また、年間配水量は1,877万1,876m<sup>3</sup>で、前年度に比べ54万3,286m<sup>3</sup>、3.0%の増加、また1日平均配水量は5万1,430m<sup>3</sup>、1日最大配水量は5万8,584m<sup>3</sup>で、年間有収水量は1,512万4,458m<sup>3</sup>で、前年度より23万4,003m<sup>3</sup>の増加となっている。いずれも、本年4月の淡路市簡易水道事業の統合による業務量の増加によるものである。

なお、有収率は80.6%、職員数は70人で前年度に比較して1人の減少となっている。

### 2. 主な建設改良事業（税込み）

平成26年度は、原水及び浄水設備費において、基幹浄水場などの電気制御設備の更新工事や導水管更新工事などを実施している。一方、送水及び配水設備費では、引き続き、老朽管更新工事や受託補償工事として下水道工事に伴う送・配水管布設替工事、また、緊急時連絡管工事などを実施している。

#### (1) 改良工事の概要（1,000万円以上）

当年度の主な工事は次のとおりである。

##### ア 原水及び浄水設備費

浄水場設備改良工事	2件	71,020,800円
水道施設改修工事	2件	32,942,160円
導水管更新工事	2件	79,084,080円
その他	1件	10,485,720円

##### イ 送水及び配水設備費

老朽管更新事業に伴う水道管布設替工事	8件	214,846,560円
下水道関連移設補償工事に伴う水道管移設工事	5件	214,432,050円
その他	14件	566,888,760円

### 3. 予算の執行状況

#### (1) 収益的収入及び支出について

## 収益的収入

(税込み)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収 入 率
	円	円	円	%
営 業 収 益	5,062,099,000	5,003,884,202	△ 58,214,798	98.8
営 業 外 収 益	2,204,190,000	2,236,055,085	31,865,085	101.4
特 別 利 益	12,002,000	15,783,287	3,781,287	131.5
計	7,278,291,000	7,255,722,574	△ 22,568,426	99.7

## 収益的支出

(税込み)

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	不 用 額	執 行 率
	円	円	円	円	%
営 業 費 用	6,101,811,000	6,075,075,614	0	26,735,386	99.6
営 業 外 費 用	994,362,000	1,010,807,579	0	△ 16,445,579	101.7
特 別 損 失	16,502,000	14,221,351	0	2,280,649	86.2
予 備 費	2,000,000	0	0	2,000,000	0.0
計	7,114,675,000	7,100,104,544	0	14,570,456	99.8

収益的収入の決算は72億5,572万2,574円で、予算額に対し2,256万8,426円の減で、収入率99.7%となっている。収益的支出の決算では71億10万4,544円で、予算額に対し1,457万456円が不用額となり、執行率99.8%となっている。

## (2) 資本的収入及び支出について

## 資本的収入

(税込み)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収 入 率
	円	円	円	%
企 業 債	1,231,800,000	835,200,000	△ 396,600,000	67.8
補 助 金	85,000,000	85,000,000	0	100.0
補 償 金	388,892,540	225,029,963	△ 163,862,577	57.9
出 資 金	257,669,000	245,402,000	△ 12,267,000	95.2
負 担 金	36,513,000	11,211,200	△ 25,301,800	30.7
固定資産売却代金	1,000	739,607	738,607	73960.7
計	1,999,875,540	1,402,582,770	△ 597,292,770	70.1

## 資本的支出

(税込み)

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	不 用 額	執 行 率
	円	円	円	円	%
建 設 改 良 費	2,451,265,000	1,736,970,731	169,815,000	544,479,269	77.8
企業債償還金	2,332,863,000	2,332,851,669	0	11,331	99.9
計	4,784,128,000	4,069,822,400	169,815,000	544,490,600	88.6

資本的収入の決算は、予算額に対し5億9,729万2,770円の減で、収入率70.1%となっている。資本的支出の決算は、5億4,449万600円の不用額を生じ、執行率88.6%となっている。

なお、資本的収入の決算額14億258万2,770円が資本的支出の決算額40億6,982万2,400円

に対し不足する額 26 億 6,723 万 9,630 円については、過年度損益勘定留保資金等で補填されている。

#### 4. 経営成績

##### (1) 収益について

(税抜き)

区 分	平成 26 年度	平成 25 年度	増 減	対前年度比
	円	円	円	%
営 業 収 益	4,644,704,842	4,684,908,698	△ 40,203,856	99.1
給 水 収 益	4,614,998,561	4,539,989,022	75,009,539	101.7
負 担 金	3,458,364	3,279,840	178,524	105.4
そ の 他 営 業 収 益	26,247,917	141,639,836	△ 115,391,919	18.5
営 業 外 収 益	2,229,854,119	1,922,985,380	306,868,739	116.0
加 入 金	39,171,432	47,764,000	△ 8,592,568	82.0
受 取 利 息	6,871,927	5,365,969	1,505,958	128.1
補 助 金	1,318,998,000	1,064,299,000	254,699,000	123.9
負 担 金	41,969,594	50,187,491	△ 8,217,897	83.6
長 期 前 受 金 戻 入 額	814,977,624	740,736,986	74,240,638	110.0
雑 収 益	7,865,542	14,631,934	△ 6,766,392	53.8
特 別 利 益	14,982,998	1,436,176	13,546,822	1043.3
固 定 資 産 売 却 益	1,728,087	933,706	794,381	185.1
過 年 度 損 益 修 正 益	1,415,620	502,470	913,150	281.7
そ の 他 特 別 利 益	11,839,291	0	11,839,291	皆増
計	6,889,541,959	6,609,330,254	280,211,705	104.2

当年度の総収益は、淡路市簡易水道事業の統合による業務量の増加から、前年度に比較して 2 億 8,021 万 1,705 円、4.2%の増加となっている。営業収益については、簡易水道事業の給水収益が増となった一方、簡水分水料金の皆減や上水分の給水収益の減少から、前年度に比較して 4,020 万 3,856 円、0.9%の減少となっている。営業外収益は、補助金の内、高料金対策補助金の増加等から、前年度に比較して 3 億 686 万 8,739 円、16.0%の増加となっている。

## (2) 費用について

(税抜き)

区 分	平成 26 年度	平成 25 年度	増 減	対前年度比
	円	円	円	%
営 業 費 用	5,931,212,522	5,679,040,190	252,172,332	104.4
原水及び浄水費	1,619,598,771	1,579,707,693	39,891,078	102.5
配水及び給水費	460,239,415	445,382,193	14,857,222	103.3
業 務 費	250,540,240	255,506,126	△ 4,965,886	98.1
総 係 費	184,185,030	200,033,454	△ 15,848,424	92.1
減 価 償 却 費	3,336,334,894	3,113,510,151	222,824,743	107.2
資 産 減 耗 費	70,205,392	73,175,896	△ 2,970,504	95.9
その他営業費用	10,108,780	11,724,677	△ 1,615,897	86.2
営 業 外 費 用	888,878,639	842,003,630	46,875,009	105.6
支 払 利 息	886,269,406	838,965,540	47,303,866	105.6
雑 収 益	2,609,233	3,038,090	△ 428,857	85.9
特 別 損 失	13,827,338	60,489,629	△ 46,662,291	22.9
固定資産売却損	61,326	262,835	△ 201,509	23.3
過年度損益修正損	1,647,030	32,443,702	△ 30,796,672	5.1
手 当	0	27,783,092	△ 27,783,092	皆減
その他特別損失	12,118,982	0	12,118,982	皆増
計	6,833,918,499	6,581,533,449	252,385,050	103.8

当年度の総費用は、68億3,391万8,499円で、前年度に比較して2億5,238万5,050円、3.8%の増加となっている。

営業費用59億3,121万2,522円は、簡易水道事業に要する費用増等から前年度に比較して2億5,217万2,332円、4.4%の増加、営業外費用8億8,887万8,639円は、前年度に比較して4,687万5,009円、5.6%の増加となり、同じく簡易水道事業に要する支払利息の増等によるものである。

(3) 有収水量1m<sup>3</sup>あたりの収益費用について

(税抜き)

区 分	平成 26 年度	備 考
年間有収水量 (m <sup>3</sup> )	15,124,458	
給 水 収 益 (円)	4,614,998,561	
供 給 単 価 (円)	305.13	給水収益/有収水量
経 常 費 用 (円)	6,820,091,161	営業費用+営業外費用
材 料 売 却 原 価 (円)	10,108,780	
給 水 原 価 (円)	450.26	(経常費用-受託工事費-材料売却原価)/有収水量
資 本 単 価 (円)	305.70	(減価償却費+企業債利息+受水費中の資本費)/有収水量

有収水量 1 m<sup>3</sup>あたりの収益（供給単価）は 305 円 13 銭で、これに対する費用（給水原価）は 450 円 26 銭となっている。また、有収水量 1 m<sup>3</sup>あたりに占める資本費は 305 円 70 銭となっている。

## 5. 財政状態

貸借対照表による財政状態は次表のとおりである。

(単位:千円・%) (税抜き)

区 分	平成26年度 (H27. 3. 31)	平成25年度 (H26. 3. 31)	増 減	比 率	構成比	
					平成26年度	平成25年度
(資産の部)						
固 定 資 産	93,037,791	88,907,538	4,130,253	104.6	95.7	95.3
有形固定資産	91,264,702	87,134,414	4,130,288	104.7	93.8	93.4
無形固定資産	1,770,677	1,770,777	△ 100	100.0	1.8	1.9
投 資	2,412	2,347	65	102.8	0.0	0.0
流 動 資 産	4,212,054	4,402,249	△ 190,195	95.7	4.3	4.7
現金預金	3,549,183	3,782,580	△ 233,397	93.8	3.6	4.1
未 収 金	569,934	507,870	62,064	112.2	0.6	0.5
貯 蔵 品	70,937	69,999	938	101.3	0.1	0.1
前 払 金	22,000	41,800	△ 19,800	52.6	0.0	0.0
資 産 合 計	97,249,845	93,309,787	3,940,058	104.2	100.0	100.0
(負債の部)						
固 定 負 債	35,635,287	33,811,101	1,824,186	105.4	36.6	36.2
企 業 債	35,573,674	33,749,488	1,824,186	105.4	36.6	36.2
引 当 金	61,613	61,613	0	100.0	0.1	0.1
流 動 負 債	2,945,895	2,940,889	5,006	100.2	3.0	3.2
企 業 債	2,396,076	2,126,183	269,893	112.7	2.5	2.3
未 払 金	462,077	683,992	△ 221,915	67.6	0.5	0.7
前 受 金	9,600	53,100	△ 43,500	18.1	0.0	0.1
引 当 金	40,159	38,590	1,569	104.1	0.0	0.0
預 り 金	37,983	39,024	△ 1,041	97.3	0.0	0.0
繰 延 収 益	23,941,602	23,059,617	881,985	103.8	24.6	24.7
長期前受金	34,676,605	33,005,140	1,671,465	105.1	35.7	35.4
長期前受金 収益化累計額	△ 10,735,003	△ 9,945,523	△ 789,480	107.9	△ 11.0	△ 10.7
負 債 合 計	62,522,784	59,811,607	2,711,177	104.5	64.3	64.1
(資本の部)						
資 本 金	27,391,796	26,223,888	1,167,908	104.5	28.2	28.1
剰 余 金	7,335,265	7,274,292	60,973	100.8	7.5	7.8
資本剰余金	2,869,965	2,864,615	5,350	100.2	3.0	3.1
利益剰余金	4,465,300	4,409,677	55,623	101.3	4.6	4.7
資 本 合 計	34,727,061	33,498,180	1,228,881	103.7	35.7	35.9
負債資本合計	97,249,845	93,309,787	3,940,058	104.2	100.0	100.0

### (1) 資産について

資産の総額は972億4,984万5千円で、淡路市簡水道事業に係る資産の引継等から、前年度に比べ39億4,005万8千円(4.2%)増加した。資産総額の95.7%を占めている固定資産930億3,779万1千円は、同じく淡路市簡水道事業に係る固定資産の引継等により、前年度に比べ、41億3,025万3千円(4.6%)増加した。



固定資産のうち有形固定資産は、淡路市簡易水道事業の引継資産 59 億 1,620 万 4 千円のほか、構築物、機械及び装置等の新規取得等で計 75 億 5,057 万 9 千円増加したものの、償却資産の減価償却等から、前年度に比べ 41 億 3,028 万 8 千円（4.7%）増加となっている。なお、取得資産の主な内容は、構築物において、老朽管更新事業に伴う水道管布設替工事及び下水道関連水道移設補償工事等で 13 億 5,569 万 4 千円、機械及び装置において、広石浄水場動力制御施設更新工事及び南あわじ市水道監視装置改良工事等で 2 億 3,038 万 2 千円などである。

流動資産は、現金預金が期首に比べ 2 億 3,339 万 7 千円（6.2%）減少し、未収金 5 億 6,993 万 4 千円は、出資金の未収額の増加等により前年度に比べ 6,206 万 4 千円（12.2%）増加した。

## (2) 負債について

負債の総額は、625 億 2,278 万 4 千円で、淡路簡易水道事業に係る繰延収益及び企業債の計上等から、前年度に比べ 27 億 1,117 万 7 千円（4.5%）増加している。固定負債が、淡路市簡易水道事業分に係る企業債引継等から前年度に比べ 18 億 2,418 万 6 千円の増、流動負債については、淡路市簡易水道事業分に係る企業債引継による増の一方、未払金の減から、前年度に比べ 500 万 6 千円の増となっている。

## (3) 資本について

資本の総額は、347 億 2,706 万 2 千円で、前年度に比べ 12 億 2,888 万 2 千円（3.7%）増加している。資本金が、淡路市簡易水道事業分の引継等から、前年度に比べ 11 億 6,790 万 8 千円（4.5%）の増、剰余金は、73 億 3,526 万 6 千円で前年度に比べ 6,097 万 3 千円（0.8%）増加している。剰余金のうち、資本剰余金は、全額が淡路市簡易水道事業分の計上によるもので、前年度に比べ 391 万円（0.2%）増、利益剰余金は、当年度未処分利益剰余金の発生によるもので、前年度に比べ 5,562 万 4 千円（3.7%）の増となっている。

## 6. 経営分析

### (1) 安全性について

(単位：%)

区 分	平成26年度	備 考
流 動 比 率	142.98	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自 己 資 本 構 成 比 率	60.33	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本金} + \text{剰余金}} \times 100$
固 定 比 率	158.58	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}} \times 100$
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	98.66	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

#### <解説>

区 分	説 明	全国同規模平均	
		平成25年度	平成24年度
流 動 比 率	短期債務に対応すべき流動資産に対する割合を明らかにする比率で、 <u>200%以上が望ましく</u> 、比率が高いほど現金預金等の流動資産が十分あることを示す。	465.89	751.45
自 己 資 本 構 成 比 率	総資本とこれを構成する自己資本（自己資本金・剰余金）の関係を示すもので、 <u>自己資本比率が大であるほど経営の安全性は大きいものといえる。</u>	62.65	69.70
固 定 比 率	固定資産は、自己資本によってまかなわれるべきとする企業財政上の原則から <u>自己資本に対し100%であることが望ましいとされている。</u>	143.89	130.54
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	資金が長期的に拘束される固定資産が、どの程度自己資本や固定負債などの長期資本（自己資本）によって調達されているかを示すものである。この比率は常に100%以下で、かつ、低いことが望ましい。	92.09	92.09

### (2) 収益性について

(単位：%・回)

区 分	平成26年度	備 考
総 収 支 比 率	100.81	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
総 資 本 回 転 率	0.05	$\frac{\text{営業収益}}{(\text{期首負債資本合計} + \text{期末負債資本合計})/2}$
総 資 本 利 益 率	0.06	$\frac{\text{当年度純利益}}{(\text{期首負債資本合計} + \text{期末負債資本合計})/2} \times 100$

#### <解説>

区 分	説 明	全国同規模平均	
		平成25年度	平成24年度
総 収 支 比 率	企業の収支内容を示し、経営上重視される比率の一つで、 <u>100%以上を理想とし</u> 、その超えた部分が利益を示し、長期に下回る場合は赤字を示す。	109.25	107.89
総 資 本 回 転 率	<u>回転率が大きいほど、少ない資産で大きい売上高を獲得できていることとなり</u> 、資産が効率的に活用されているかどうかの指標となる。	0.07	0.08
総 資 本 利 益 率	企業に投下された資本の総額とそれによってもたらされた利益とを比較したものであり、事業の経常的な収益力を総合的に表す指標である。 <u>この指標が高いほど、総合的な収益性が高いことになる。</u>	0.71	0.64

## 7. むすび

平成 26 年度水道事業会計の決算審査の概要は以上のとおりである。

本年度における業務状況は、淡路市簡易水道事業統合により、給水人口で前年度に比較し 3,784 人(2.8%)増の 14 万 1,259 人となっている。同じく年間配水量は、対前年度 54 万 3,286 m<sup>3</sup>(3.0%)増の 1,877 万 1,876 m<sup>3</sup>、有収水量は 1,512 万 4,458 m<sup>3</sup>で、対前年度 23 万 4,003 m<sup>3</sup> (1.6%) の減となっている。また、有収率は、80.6%と対前年度で 1.1 ㊦悪化しており、全国平均を大きく下回っている。今年度は、簡易水道事業統合も悪化の要因と考えられるが、給水効率の低下を示すものでもあることから、不明水量の原因追究を徹底し、有収率の向上に資するよう、全庁的な取り組みを要望する。

また、経営内容を見ると、淡路市簡易水道事業の統合による業務量の増から、総収益は前年度に比較し、2 億 8,021 万 1,705 円増の 68 億 8,954 万 1,959 円、また、総費用も、前年度に比較し 2 億 5,238 万 5,050 円増の 68 億 3,391 万 8,499 円となり、本年度は、純利益が 5,562 万 3,460 円生じている。しかしながら、料金収入は、上水ベースで見ると、前年度と比して 8,232 万 320 円(1.81%)減少の 44 億 5,766 万 8,702 円、有収水量についても 1.9%減少しており、今後も人口減少や節水機器の普及、更には節水意識の高揚から、料金収入の伸びは期待できる状況にない。

今後は、簡易水道事業の統合が完了したことから、収支バランスのとれた中長期的な事業計画のもと、経営管理の一元化により一層の効率性を発揮し、安全で良質な飲料水を安定的に供給されることを期待するものである。